

令和7年度大高小学校研究について

【令和7年度研究主題】

基礎基本が定着する授業づくり

(1) 目指す児童像

低学年	具体物や図等を用いて、進んで問題を解くことができる児童
中学年	具体物や図、言葉等を用いて、考えを伝え合い、問題解決に活かす児童
高学年	図や式、数直線などを用いて、自分の考えを分かりやすく説明することができる児童
一くみ	数学的活動を通して、意欲的に学習に取り組むことができる児童

(2) 研究主題設定の背景

学力テストの結果から算数科において学力の二極化が進む本校の実態を踏まえ、学力不振児に確かな学力を身に付けさせたり、学力上位の児童の授業満足度を上げたりする手立ての研究を深めたいと考えた。算数科の学力向上のためには、思考力・表現力を支える基礎基本の力を確実に身に付けることが重要であると考え、研究一年次の令和6年度は、市の「基礎基本定着事業」の指定を受け、タブレットドリルを活用しながら「基礎基本が確実に身に付く授業」をつくることのできるよう上記の主題を設定した。「練習問題を多く解くことで基礎基本の力が身につくのではないか」という仮説をたて、1時間の授業のタイムマネジメントを見直し、授業改革を図った。二年次にあたる令和7年度は、さらに研究を進めるために、計算領域や知識技能だけでなく、様々な領域の授業公開を行いたい。

(3) 基礎基本とは？

その単元で身に付けさせたい知識や技能

(4) 基礎基本の力が身についたかをどうやって判断するか

練習問題(教科書の△問題)が解けているか

(5) 基礎基本(知識技能)と思考力の関係性

- ・ 教え込みを推奨しているわけではない
- ・ 学習指導要領解説 算数編P24④
- ・ 反復練習、具体物や半具体物の操作など、単元の特性に応じて「知識技能を習得させるのに有効な学習活動は何か」を考える